詫間中学校学校通信　　輝笑転結　～ 一人一人が立て役者 ～

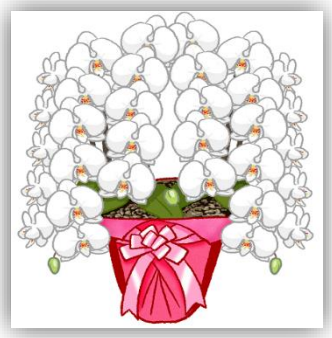
浦島伝説

令和５年 ７月　７日
第 １３ 号

植物は会話していた！

玄関に飾っている胡蝶蘭を見かけた人も多いと思います。４月３日（月）から飾られています。今もきれいな花が咲いています。「いったい胡蝶蘭はどのくらいの期間咲くのだろう」と疑問に思い、調べてみると次のように書いてありました。

『胡蝶蘭の花は、実は１ヶ月以上にわたって楽しむことができます。ひと鉢で複数のお花を付けるため、それぞれの開花時期がずれることを考慮すると、最後の花が散るまで３ヶ月ほど楽しめる場合もあります。また胡蝶蘭は、花が散ったり落ちたりしても枯れてしまうわけではありません。』　　【花言葉：幸福が飛んでくる】



「３ヶ月ほど楽しめる**場合もあります。**」ということは、ほとんどが２ヶ月程度で花は、なくなるということになります。

我が家にもこれまで胡蝶蘭が届き、咲いていたときもありますが、果たして３ヶ月咲いていたことがあっただろうか。玄関の胡蝶蘭は、用務員の本田さんが、管理（花への噴霧や水やり）してくれていることや事務室や来客者、詫間中学校の笑顔のおかげで今も咲き続けています。ありがとうございます。

ＮＨＫスペシャルの大型シリーズ「超・進化論」という番組の中で「植物がコミュニケーションをしている」という研究が紹介されていました。植物が、周りの植物や虫たちと、何らかの情報のやりとりを行なっていること。とても興味深い話でした。自分の見えてない世界が植物や昆虫の世界の中にはあって、情報のやりとりをしているというのです。この番組では、２つのことが紹介されていました。

１つ目は、あるテントウムシについてです。そのテントウムシは、小さなハムシの幼虫が大好物でそればかりを見つけ出して食べるそうです。虫が虫を捕まえるという当たり前のような事象に、実は不思議なコミュニケーションがあるというのです。ハムシの幼虫が大好物のヤナギの葉を食べたとき、ヤナギが「ある物質」を放出して、テントウムシを呼び寄せていることが、研究から分かってきています。その物質は、「ハムシの幼虫に食べられている」という**情報をテントウムシに伝える“メッセージ”**になっているそうです。「虫は自分の力だけで食べ物を見つけているのではなく、植物が発する**“声”**を聞くことで初めて、獲物にありつくことができているというのです。

２つ目は、森の地下には、木と木をつなぐ**巨大な菌のネットワーク**が存在しているということです。目に見えない地下でのつながりは、遺伝子解析技術によって明らかになり、数十メートル離れた植物どうしが、根に付着している同じ菌糸（細い糸状の菌）のネットワークでつながっていることが、遺伝子の解析から分かってきたそうです。植物たちは、お互いに同じ菌糸のネットワークにつながることで、生きるのに欠かせない養分などを**シェア**していることが分かったというのです。例えば日の当たらない暗い森の中で生きることさえままならない小さな幼木は、大きな大木の地下で育まれた菌糸のネットワークにつながり、そのネットワークを通して栄養を得ることで、生き残れる可能性があるのだといいます。植物たちは、生存競争をしていると思っていましたが、お互いを助け合っているという想像を超えたつながりがわかってきたのです。**植物たちは、自分だけが良ければいいという、周りを排除するような生き方は、むしろ生き残れる確率が低くなると考えていたようです。**

驚きと感動の連続でした。自分の知らないことが多すぎて・・・。研究を続けてくれている方や知識を伝えてくれる番組にも感謝しかありません。植物や昆虫の見方もかわってきました。みなさんも詫間中学校で多くの知識を吸収しながら多くのことに気づいてください。新たな「気づき」があったときは、ぜひ教えてください。楽しみにしています。